

# 道岳連だより

広報 NO.83  
平成30年5月1日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>



平成29年の道内における山岳遭難の発生は、123件で遭難者数は156人(死者13人)を数えた。2018年の安全登山シンポジウムは、「山の日」制定を機に、そして本格的な夏山シーズンを前に、一般登山者に対して正しい知識と有用な情報を提供し、遭難防止に対する意識の向上と啓発をはかることを目的に開催される。主催は北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟。

シンポジウムの内容は、1. 北海道における山岳遭難の実態(北海道警察地域部地域企画課指導官西村和隆氏) 2. 野生圏への山旅(写真家伊藤健次氏)、パネルディスカッションでは「ヒヤリハット!」…山でこんな体験したことないですか! 山を舐めたことはありませんか!…参加料は無料で、入場先着順320名を予定している。

## 第32回北海道山岳連盟交流登山会

平成30年8月25日(土)-26日(日)千歳・恵庭両山岳会が主管

第32回目を迎える北海道山岳連盟交流登山会は、8月25日～26日の両日千歳山岳会、恵庭山岳会が主管して開催する。宿泊は支笏湖モーラップキャンプ場で、参加者各自がテントを持参する。

登山コースは、①恵庭岳…ポロピナイルート(第2見晴台まで4時間30分) ②樽前山…外輪山周遊ルート(7合目ヒュッテから4時間) ③風不死岳縦走…花畑ルート～北尾根登山口(5時間10分) ④風不死岳…北尾根ルート(3時間30分) ⑤イチャンコッペ山…ポロピナイ展望台ルート(3時間)

日程概要は、25日13:00から受付、テント設営、15:00開会式、16:00から交流会。26日6:00各登山コースに分かれて登山開始、下山確認後に解散となる。

参加料は3,000円～4,000円を予定。キャンプ場使用料の関係から、主管団体が加盟団体オリジナルのTシャツ製作を受注し、その収益を参加料低減に充当するという工夫も。参加申込みは平成30年7月31日(火)必着で、詳細は近日中に加盟団体に周知される。

## 鎌田耕治顧問が旭日双光章綬章 平成 30 年春の叙勲 \* スポーツ振興功労

平成 30 年 4 月 29 日、政府は春の叙勲授章者を発表し、当山岳連盟鎌田耕治顧問がスポーツ振興功労により、旭日双光章を授章した。4 月 29 日北海道新聞朝刊で、記者が取材し授章者紹介に掲載された喜びの声を以下に転載する。

… 20 歳で登山を始め、旧郵政省小樽貯金局勤務の傍ら、小樽山岳会に入会。道内の山岳会で作る北海道山岳連盟で児童・生徒の登山の普及活動に取組み、2006 年～2010 年に会長を務めた。「授章は仲間や家族のおかげ」と感謝する。1981 年には中国・ミニアコンカ峰で連盟の 8 人が亡くなった。「事故を二度と起こすまい」と指導員育成に力を入れ、中・高年向けの講習会も開催。「安全に登山するには山が好きだけでは駄目。技術を磨く必要がある」と訴える。いまもトレッキングに出かける。「体力に見合った形で山との付き合いを楽しみたい」…

## 日本体育協会は 4 月 1 日 日本スポーツ協会へ 公益財団法人 日本スポーツ協会

平成 29 年 6 月 23 日に開催した平成 29 年度定時評議員会において、「日本体育協会の名称変更」及び「定款の変更」を承認しました。これにより、平成 30 年 4 月 1 日付けで名称を「公益財団法人日本スポーツ協会」（英文表記；Japan Sport Association）に変更します。

また、「国民体育大会」の名称については、「国民スポーツ大会」に変更する方針を承認しましたが、同大会の名称は「スポーツ基本法」に規定されており、本会とともに同大会の主催者である国での今後の検討もあることから、最終的には「スポーツ基本法」の改正に準じて対応します。  
(日本スポーツ協会 HP より掲載)

## 行事・各委員会事業報告

### 平成 29 年度 第 3 回理事会 3/11 札幌エルプラザ

平成 29 年度北海道山岳連盟第 3 回理事会は、札幌エルプラザ中会議室で開催された。議件として第 1 号議案 日山協全国理事長会議報告 第 2 号議案 平成 29 年度事業報告 第 3 号議案 平成 29 年度会計決算(中間)報告 第 4 号議案 平成 30 年度事業計画(案) 第 5 号議案 平成 30 年度会計予算(案) 第 6 号議案 備品台帳 第 7 号議案 道岳連規約改定 第 8 号議案 各種議題 第 9 号議案 役員改選について 第 10 号議案 その他が提案された。

第 1 号議案は明田理事長が日山協理事長会議の内容を詳細に報告、第 2 号議案～第 3 号議案は自然保護指導員の更新辞退者の増加要因、日山協補助金の振分け等の質疑を経て報告を承認。第 4 号

～第6号議案の事業計画・予算は、行事・事業日程をHPに掲載、ほぼ前年並みの事業を組むことを各担当者が説明し承認。第7号議案道岳連規約改正では、検討委員会が総会開催時における理事、代議員の権限について、現行規約を整理・検証した改正案が提案された。質疑で、会員が少ない山岳団体などは理事、代議員それぞれの出席は難しい状況にあるとの異論も出たが、賛成多数で承認された。第8号議案 各種議題は、交流登山会、全日大会、安全登山シンポジウム、トレランなどの日程と内容の提示があった。第9号議案では、任期満了に伴う役員改選について、各団体に送付した三役推薦候補記載に基づき推薦決定、副会長に女性候補を指名した旨を提案。選考委員会を設置して選考すべきとの意見も出されたが、賛成多数で承認された。第10号議案 その他は、道内における積雪期山岳遭難事故の状況が報告され15時30分会議を閉会した。



## 日高登山研修所開き 4/14-15 日高登山研修所

平成30年度安全登山研修会&日高登山研修所開きは、4月14-15日に45名の会員の参加で実施した。14:00の受付後に研修所内外の大掃除、終了後は男子休憩室で講師二名による発表会に移る。函館マウンテンクラブの西條寧講師は、Webで「地図がガイドの山歩き」のHP開設者、閲覧カウントは329,301。北海道のヤブ山踏破の体験を講義した。北海岳友会の佐藤精久講師は、北海学園大学2部山岳部幹事・コーチ。学生の指導とあわせ、自身の本州アルパインルート登攀の経験や海外登山の目標を披露した。17:30からは恒例の懇親交流会、食事担当はG・M宮園眞壽美さんと札幌山の会の皆さんが担当し、参加者は大いに懇親を深めた。



講師による発表会

二日目は、日勝ピーク周辺で春山スキーとスノーシュー、屋内体育館のクライミングボードによるスポーツクライミング・ボルダリングの基礎の実習、安全講習としてのロープワークに参加者はそれぞれ分かれて研修を行った。



ロープワーク講習



日勝ピーク班

## 第1回拡大合同登山 3/24-25 樺戸山群 大滝山

3/24 未知の山塊、7名の混成チームとなるので計画を入念につくりあげそれぞれ届けを出す。

ダム管理用道路が開いていたのでラッキー！ パッキングを終え管理棟横の急斜面を登る。Co574からCo438までの下りも重いリュックと軟雪に苦労する。Co627を巻くように進むと所々作業道にあたる。前方に知来岳、奥徳富岳、南暑寒、徳富岳が見事な姿を映し出している。14:30 今日の寝床作りに1時間。 8:00 札幌⇒11:20 ダム出発⇒ 14:30 Co300 テン場

3/25 テン場から8 km弱の距離にため息が出るも、朝陽に照らされたダム湖畔を黙々と歩く。取り付きからは急角度で尾根に出るまで大汗をかく。歩いて歩いて目標の山頂につかないが、前方に見える山々が癒やしてくれる。山頂につき暑寒別山群の山座同定に話がはずむ。下りはCo583までは快調に滑り降りる。そのあとの急斜面は暖気で雪が緩み、スキー操作もままならずキックターンノ連続だった。テントをかたづけダムまでのルートを再度協議する。大きな橋が見えそこまで湖畔を戻ることにした。



大滝山からの奥徳富岳

管理棟に着きやれやれ「おつかれさまでした」のかけ声に皆さんの笑顔がうれしい。もう一つ予定の徳富岳は遠くて足が出なかったが、これも見極めが肝心と納得する山行でした。

6:30 テン場出発⇒ 8:06 尾根取付き⇒ 10:45 大滝山⇒ 13:45 テン場⇒ 15:40 ダム

(報告 明田 通世)

## 第2回拡大合同登山 4/21-22 羊蹄山・京極山荘

1898m 羊蹄山は四季折々楽しめる名山です。花の季節は魅力的ですが、雪のある時期はさらに魅力を増します。スキーヤーにとっては厳冬期、樹林の切れる1200mから下、標高差800mのエリアは、パウダー天国状態です。3月中旬からは、晴れて風がなく新雪が多少あれば、山頂からの大滑走が楽しめます。4月中旬過ぎれば、新雪が解ける時間が狙い目です。標高差1500mの滑降は、残雪期の利尻山と双璧です。



ガラメ雪を楽しみながら

そんな羊蹄山の4月、札幌山の会は「羊蹄山のとっぺんから滑ろう！」という企画を続けています。滑る楽しみはもちろん、毎年行うことによって、自分の今の体力を知る機会になります。

今年度、この企画が4月の道岳連拡大合同登山会に選ばれ、8人の道岳連会員の参加表明がありました。釧路1名、十勝3名、旭川2名、札幌2名の皆さんです。札幌山の会は4名が山に向かいました。幸い

天候に恵まれ、山の会の1名を除いて全員が山頂に立てました。スキー滑降の安全性を考え、スキーデポを早めに決断(1300m)、その後の歩行ペースが保たれたこと。なによりも、参加者の日頃のトレーニングが功を奏し、登攀力が高かったことによります。

来年への期待が膨らみます。来年は登攀力、スキー技術をさらに磨いて、山頂から滑りたい、という参加者の声が複数寄せられました。

#### 《リーダー行動記録》

数日の好天で雪は柔らかくなりシールが良く効き順調に高度を稼ぐ。傾斜が増す1300mでシーデポ、雪面が固くなったのでアイゼンを装着、周りの景色を楽しみながら京極コースのてっぺんに予定の時間で到着した。風もない穏やかな頂上でのんびりし、集合写真を撮ってから下山を開始した。さらに雪は柔らかくなり時々ズボッと埋まりながら尻滑りも交えてシーデポまで下り、途中で遅れていた一人も合流した。その後はスキーを着けてザラメ斜面に飛び込み、足並みが揃っていたのでスムーズに山荘まで春スキーを楽しみ滑り降りた。

京極山荘(420m) 7:00～スキーデポ(1300m) 9:40-10:00～京極側山頂 11:20-12:10～京極山荘 13:50  
(報告 札幌山の会 秋元 篤男)

### 参加者感想

### 新得山岳会 山崎 千種

4月21日、京極山荘16時着、会の方々は晚餐の準備に追われていました。「お疲れ様、飲みながらやりましょう(準備)」の素敵なお声かけに、ついビールのプルタブをシュ！山荘の薪ストーブが暖かく、窓からは羊蹄山がドーンと迫って見え、がぜんやる気が湧いてきました。数々の御馳走をいただき、おとなしく21時就寝。

明けて22日、朝食後いざ出発！ビーコンチェックのあと7時、山荘から京極コースをスタートしました。森林限界まで大汗をかきながら登行、なかには半袖スタイルの人もありました。帰路迷いやすい箇所の説明をいただき、休憩を入れながら2時間40分で1300m地点、シーデポとなりました。

こんな斜面滑れるのかなと高度感をひしひしと感じていたので一安心、その後つぼ足でピークに11時50分着、ほとんど無風、360度の景色を十二分に堪能してからスキー



いざ、てっぺんに向け出発

デポ地点まで下山、いよいよ大滑降となりました。30度近い斜面もざらめ雪だと登る時に感じた恐怖感が消え、問題なく滑ることができるものなんだと思いました。12人がつかず離れず安全に滑走し、えー！もう！という間に全員が笑顔で山荘に戻りました。今回のスキー登山は札幌山の会の歴史ある登山会、今年14回目とのことですが、歓迎していただき、ゲストとしてお世話になり、楽しませていただきました。次回があるなら、是非ともてっぺんから滑る技術の研鑽を積みたいと心から思いました。ホスピタリティあふれる方たちの笑顔に見送られて山荘を後に帰路につきました。ありがとうございました

#### … 個人会員35名に …

平成26年12月に募集開始した北海道山岳連盟個人会員は、三年を経過した今年2月現在35名に達し、道岳連の各種事業に積極的に参加している。

構成は、男27名、女8名で、60歳未満が27名(77%)となっている。

## 山岳スキー指導者研修会 12/16-17 ニセコモイワスキー場ほか

山岳スキー運営委員会が主催する平成 29 年度山岳スキー指導員研修会、初心者及び初・中級山スキーヤー研修会は、平 29・12 月 16-17 日ニセコモイワスキー場及びニセコ連峰ビーナス丘、宿舎は蘭越町・まっさんヒュッテに道内各地より受講者 22 名、スタッフ 7 名が参加し開催しました。

山岳スキーは、パウダーのツリーランが楽しみですが、安全に滑ることを目的として 1 日目はゲレンデで 10:30-15:00 基礎スキー講習を行いました。その後、蘭越のまっさんヒュッテで講師の解かり易い資料の基に机上講習が行われ、夕食を兼ねた懇親会では明日の期待や希望が話され親睦を深めました。

2 日目は 8:20 に出発。旧チセスキー場を避け東側の沢筋から尾根に上がりビーナスの丘を目指しました。各班は途中でピットチェックや抜き足ターンの練習をしながら森林限界までやってきました。休憩をしていると急に吹雪に会い、11:30 チセヌプリとビーナスの丘コルでやむを得ず撤退。風の弱い樹林帯でインディアンツェルトを張って昼食を取り下山準備をしました。

下りは皆さんの滑走技術を駆使し、パウダーを楽しみながら 13:30 出発地点に戻り終了となりました。  
(報告 山岳スキー運営委員 西嶋 克己 B 班記録係 吉田 郁子)

### 受講者感想

#### 個人会員 中村 孝男

12 月 16 日～17 日の一泊二日の研修会に参加しました。1 日目はニセコモイワスキー場です。荒堀指導員からスキーの基本動作から深雪滑走のテクニックを教わりました。ずらして曲がる、押して曲がる、体重移動、プルークボーゲン、パラレルターン、ショートターンと教わりました。深雪スキー滑走では、スキー板の構造や滑るときの姿勢、止るときの方法などを教わりました。荒堀指導員から重要なのは安全な滑りで、無事下山することと言われました。

その後、宿泊先の「まっさんヒュッテ」に移動し座学研修です。コンパスの使い方、山岳スキーにおける携帯スマホの利用、地図の見方、雪崩の発生形態、ビーコンの使い方です。興味深かったのは GPS やスマホで測位した座標データを、地図のマップポイントで現在地を確認する方法です。

2 日目は天候が心配されましたが、朝のうちは風も弱く晴れた天候です。旧チセスキー場よりビーナスの丘へシール登行です。ビーコンチェックを行い、ビーナスの丘を目指します。シール歩行の登り方、キックターンの方法を教わり、弱層テストも行いました。滝澤指導員から弱層テストや雪の観察から安全な行動判断が出来るかどうか重要だと言われました。途中から吹雪になり、登行を中止しインディアンツェルトを張り昼食後下山しました。



吊り下げ式ツェルト

スキー場斜面はふわふわ雪が深く積もり楽しい滑りが出来ました。キックターン途中でバランスを崩し転倒しました。深雪から起き上がる難しさと、転倒が思ったより体力を奪うと実感しました。また、雪山での特に吹雪になった時の行動の素早さ、装備の重要性、また、ツェルト張りなど貴重な体験をした研修会でした。参加された皆様お疲れ様でした。指導員の皆様お世話になりました。

### 受講者感想

#### 富良野山岳会 青木 憲康

昨年に続き参加させて頂きました。

主催スタッフの皆様、山行リーダー、副リーダー、そして参加者の皆様お疲れ様でした！

自分は、テレマークスキーなるものを始めて7年ほどなのですが、毎シーズン滑る度、股が悲鳴をあげて長い滑走が出来ず、筋力不足かと思っていました。16日のゲレンデ研修の時、午後から西嶋さんにいろいろアドバイスを頂き、ターンの時体重移動を思い切って谷脚側に預ける… 重力に立つのではなく、斜面に立つ… 等々、今までの自分の滑り方と違うことに恐怖感を感じながら思い切ってやってみると、山脚が振り子のように回り込み、テレマークが脚の負担も少なくキマリ、感動的な瞬間でした。そして、まっさんヒュッテにて内容の濃い座学、さらに濃い懇親会…

翌日、薄曇りの朝風もなくシャクナゲ岳目指し深いラッセル交代しながらハイクアップ。森林限界のチセヌプリ麓辺りで急に天候が変わり吹雪模様… 各リーダーの適切な判断のもと戻ること… 登山口正面、自衛隊管理の横のオープンバーンを各々の軌跡を描き、楽しく全員無事下山に改めて山岳スキーの楽しさ難しさを感じました。これからのハイシーズン、安全第一で滑り倒しましょう。ありがとうございました！



弱層テスト

## 氷壁技術講習会 1/20-21 層雲峡銀河の滝

本年度の氷壁技術講習会が2018年1月20日-21日の日程で層雲峡銀河の滝で行われ、講師2名と参加者6名の合計8名が参加しました。

20日は天気も穏やかで予定通りに集合。12時頃より講習開始。氷壁初心者や経験者もあり、アックスやアイゼンの打ち込み方など基本的な技術のおさらいをした後、トップロープ2本を張り登りの練習。その後、支点の取り方やアバラコフの作り方などを行い、15時頃終了。気温は低くいい氷で、人も少なく快適に講習ができました。

宿に戻り夕食前、基本的なアイスクライミングの机上講習を行い、夕食と懇親会。11月にネパールの未踏峰リベンジを目指した江崎氏のスライドショーを肴に盛り上がりました。

翌21日は都合で一人(指導員資格のない方)帰札し、経験者組4人と初心者組3人の2組に分かれ、上部登攀組は、下部はノーロープで登り、上部2ピッチを登攀し落口に立ちました。懸垂下降も無事終わり、下部トレーニング組と12時に合流。初心者組は、基本的な技術を復習しました。その後全員で駐車場に戻り解散。

今年も初心者と経験者がいい割合で構成されたので登攀と下部トレーニングでき、参加者の皆さんには満足がいったかと思います。ただ、実際のヒマラヤ登山報告を聞ける方が少なかったのが残念です。また、指導員をお持ちの方にもお手伝いを頂き有り難うございました。

(報告 海外委員長 工藤 寛)



落差120mの氷瀑を攀る

## 受講者感想

個人会員 高杉 有里

「初心者歓迎」の講習会案内に、図々しくも参加させていただきました。

個人会員になってまだ1年程ですが、夏山・冬山講習会への参加を楽しみにしております。講習会に参加する度に、新しい発見と装備の正しい扱いを知ることが出来て山の魅力にどんどん引き込まれています。

今回の講習では、自分の持っているピッケルでは氷には全く突き刺さらずに用途が違うことを実感しました。右手も左手も同じようにピッケルを扱えなければならず苦労しました。アイゼンについては、ヒールを下げて蹴り込み足元の安全を確保することが出来ました。

登りについては、ピッケルとアイゼンがしっかり刺さっている感覚を確かめながら一步步進むことが出来ましたが、下りについては高さの恐怖とロープへ身を預ける勇気が必要でした。

ブレイを体験出来たことも、とても貴重な体験でした。ロープを扱い、カラビナなどグローブをはめた状態での作業が手際よく出来なければいけないと感じました。道具の進化やその扱い、ロープの結び方も学びました。

また一つ山の楽しみを見つけてしまった… というか、見つけることが出来ました。機会があればまたチャレンジしたいと思いますし、来年の参加を今から楽しみにしております。

## 受講者感想

個人会員 土崎 健

1 日目は、銀河の滝下段で、基本動作確認をしました。工藤さん、江崎さんにご指導いただきました。トップロープで、ピッケル(アックス)の氷壁への打ち込み方、かかとを下げるとアイゼンが氷壁に刺さりやすいことなどを教えていただきました。トップロープで確保されていながらも、アイゼンがしっかりとかかっているのかが不安で、冷や冷やししながら氷壁を登りました。

その後、層雲峡温泉「ペンション銀河」に移動、夕食後に机上講習を行いました。資料をもとに、改めて基本動作の確認をしました。ヒマラヤなど海外の高い山を登るには、岩や氷を登る技術が必須で、そのためにこの氷壁講習会を開催することになったという経緯も聞かせていただきました。そして、江崎さんが先日ネパールに行った時の画像を見せてくださり、規模の大きい海外の山々に圧倒されました。



2 日目は、技術レベルに応じた登攀でした。初心者の私は、銀河の滝下段にて改めて工藤さんにご指導いただきました。ピッケル(アックス)を使わずに、アイゼンだけを使っての練習により、少しアイゼンに自信が持てるようになりました。しかしながら、依然として「ヒールを下げる」、「足を開く」、「二等編三角形」のポジションを取ることは難しかったです。アイゼンを氷に刺すと、「刺さっているのかな？」と思い、「しっかりとささっているよ」と言われるものなかなか感覚が掴めませんでした。その後、アイススクリュウの使い方や懸垂下降の練習をしました。「やればやるだけ上達します」という言葉を胸に、また参加させていただこうと思います。

経験者の方々は、銀河の滝を「リード&ブレイ」で、滝の落口(てっぺん!)まで登ってきました。道具を使いこなし、登攀していて見事でした。下から見ると人影がすごく小さく見え、高さを感じました。初めてのクライミングはなかなか難しく、まだまだ自分の「足」に自信が持てませんが、連盟の皆様、経験者のご支援のおかげで、無事体験を終えることができました。ありがとうございました。

## 山岳スキー(氷雪)技術研修会 2/11-12 日勝ピーク周辺

2017年度の山岳スキー(氷雪)技術研修会は、日勝峠の日勝ピーク下部斜面で実施しました。参加人数は受講者17名、スタッフ7名、オブザーバー1名の合計25名(個人会員3名)。

初日は午前10時に日高登山研修所に集合し、車両台数を調整して峠に向かう。駐車場には既10台を超える車があり、数パーティーが入山している様だ。11時位から3班に分かれ、風も強く寒さも厳しいがそれぞれの斜面を目指して研修に入る。ビーコンチェック、スキー登高技術、弱層テスト、アイゼン装着訓練、スキー滑走技術研修を実施しているとあっという間に下山時間となる。30分程時間オーバーで集合し、日高青少年自然の家へ移動。

17時から18時半まで「セルフレスキュー」、「アイゼン・ピッケルワーク」について机上研修。夕食後さらに1時間、実情交流会の時間を削り、「滑落停止技術」と「SAB技術」の机上研修を実施する。

翌日は、8時半日勝峠へ移動開始、峠の駐車場に到達するも気温マイナス20℃、風も強く研修には厳しい気象条件の中、SAB技術、滑落停止の研修ができる斜面に移動し、スキーで踏み固める作業で少しは体も温まる。1班、2班隣り合ってそれぞれにSAB技術から研修を開始する。各班は前日の机上研修内容を確認しながら熱の入った実技研修を行った。13時無事に研修を終了し駐車場に集合、閉会式を行い解散となった。

登山技術や用語も日々進歩と変化をしている状況です。研修会に参加する事により新しい技術や用語の情報を得ることができる貴重な機会でもあります。参加者各自、この研修の中でいろいろな技術を体験したり知識を得たものと思います。その技術を今後の登山活動に生かしていただきたいと思います。

(報告者 指導委員会 石川 孝一)

スタッフ 藤木委員長 藤木たか子 滝澤 大徳 荒堀 英雄 渡辺 良久 西嶋 克己 石川 孝一



SAB訓練



閉講式後の参加者集合写真

### 受講者感想

〇ビニア山岳会 逸見 春美

《研修内容》実技⇒ ①ビーコンチェック、ハンドテスト ②キックターン、プルークボーゲン、斜滑降、横滑り ③アイゼン装着歩行、ピッケルワーク、ピッケル滑落停止 ④SAB

机上講習⇒ 雪崩対策、アイゼン&ピッケルワーク、滑落停止、SAB

日高登山研修所集合後、10:40 日勝峠トンネル駐車場から日勝ピークに向かった。曇り空の中風もあったが、すでにトレースもあった。キックターン、シャベルコンプレッション等指導を受けた。12:40 休憩、その後アイゼン装着歩行練習、ピッケルワーク、スキー練習を終え、駐車場に向かって滑った。重い雪質でコントロールが難しく、ボーゲンでおりた。

2日目、気温マイナス20度、曇り空の中風もあり、日勝ピークを50m位登り、急斜面を全員で整地を行った。指導者がSABとピッケル滑落停止の模範を示し、立ち位置、胸を張る姿勢肩がらみ、ロープを握る、流す等細かく指導を受けた。私はSABの訓練は初めての事で、右手でロープを掴んで止めない、さわるだけと言われたが無意識に掴んで止めてしまった。

ロビニア山岳会の冬山訓練では、アイゼン装着歩行練習とピッケル滑落停止を実践しましたが、今回の滑落停止訓練のピッケルは、姿勢が悪かったのか思うように刺さらなかった。コーチの方は、「これがきちんと止められるようになれば、芦別本谷も行けバリエーションが広がる」と話された。訓練は繰り返すことが大事ですね。

私の身支度は昨日同様フリース2枚、カップ、冬用アウターを重ね、目出帽ゴーグル、手袋3枚重ね。行動中であればこの準備で良かったが、時間がたつと背中など冷えてきた。厳冬期はダウンやカイロを使うのがよいと感じた。駐車場に戻ったところ、皆さんの髪、まつげ、ひげが凍り付いていた。マイナス20度はひさびさの寒い体験になった。

道岳連事務局の皆様、指導者の皆様、寒い中ご指導ありがとうございました。

## 受講者感想

富良野山岳会 高見 直広

日勝峠を実技研修会場に2日間、山岳スキーを通して安全登山の重要性を確認した中身の濃い研修でした。

1日目は雪崩対策を中心に、スキー登行「抜き上げキックターン」の実技講習、雪崩対策のための観察方法としての弱層テストの意義、雪崩に埋没した要救助者を掘り出すための「V字ショベリング」を行いながら、山行する際のリーダーとして指示の出し方を深く協議しながら研修を行いました。

夕刻からは、日高青少年自然の家に会場を移動しての机上講習。冬山の環境と雪崩対策について、アイゼン歩行、ピッケルワーク、滑落停止、スタンディングアックスビレーなど盛りだくさんの内容で自己の知識の再確認をすることができました。

2日目の実技は山岳登攀を中心に、スタンディングアックスビレーの実技講習、滑落停止を行いました。強風が吹くなか、ピッケルを手に持ち、ザックを背負った状況で、新雪の斜面に体を投げ出してからの滑落停止動作は、冷静さをいかに保って素早くピックを突き刺して体を回転させて止めることの大切さを確認することができました。冬が終わり、春の残雪期の斜面をトラバースする際に十分起こりうるケースを想定し、初心者仲間にもどのようにこの学習したことを伝えるか、自分の考えを深めていく必要性を感じました。

講習を通して、仲間の皆さんと安全を確認しあいながら、感想や疑問点を出し合って理解を深めていく中身の濃い時間を過ごすことができました。今後は会の仲間にも学習したことを伝えることを通して、さらに充実した活動にしていきたいと実感することができました。

ありがとうございました。

## 山岳スキー技術研修・強化合宿 3/24-25 十勝連峰周辺

3月24日、道岳連の仲間が総勢21名集まった。集合途中、富良野市の郊外から十勝連峰が見渡せ最高の登山日和。午前10時富良野岳登山口に集合し出発準備をしていると、斜面に登山者の姿が見え我々の気持ちが高まる。

ヌッカクシ富良野川を渡り、尾根に取付き高度を順調に稼ぐ。標高1100mを超えると徐々に雪質

も良くなり下りが期待できる。しかし、上部を見ると所々光っていてカリカリ斜面が予想される。本日はどこまで登れるかが気になる。森林限界を超えると急に斜面が硬くなり、予想が早くも当たってしまった。目標の1500mまでは達せず1400mで撤退。ここに集まる仲間は初心者と言えども皆スキーが上手い。皆快調に滑り登山口へ戻る。

白銀荘に入り早めの宴会突入。食料担当者が用意してくれた食事を堪能し、差し入れのアルコールで大いに盛り上がる。

翌日は、朝4時起床。皆まだ寝足りないようであったが、本日は三段山を目指して準備、予定通り6時に出発。この時間であれば十分に山頂を狙える。夜のうちにきっと降雪があり、シールが程よく効き歩きやすい。順調に高度を稼ぎ二段を超えても風が弱くまだ行ける。しかし、上方はガスが掛かり見通しがきかない。低木がなくなると目標物がなくどこを歩いているかわからず、コンパスを当て方向を決めて行くが、とうとう限界がきた。8時前に撤退。（報告 西嶋 克己）



白銀荘保養センター前で

## 受講者感想

## S・M

1日目；『富良野岳ジャイアント尾根』 気持ちの良い、すっきりとした青空。いよいよ強化合宿の始まりです。渡渉ポイント、落ちないように慎重に。A班、B班に分かれて出発です。しゃりしゃりの雪で滑って登りづらい。途中のトラバース右側に落ちそう… 景色を見る余裕はなく、皆についていくのに必死です。上の方は凍っていて滑ります。もう限界です。やっと振り返ると、遠くの山並みがくっきり、素晴らしい眺めです。あまりに見えすぎてちょっと怖い。



ジャイアント尾根樹林限界付近

下界に吸い込まれそうになりながら、滑り降りて行きます。転んでいるのは約一名。皆さんにアドバイスを受けながら、転がっています。斜度におびえ、木におびえ、ターンに横滑りに斜滑降、できないことばかりでしたが、強化合宿の名のごとく、みっちり教えていただきました。参加してよかったです。

ジャイアント尾根を存分に堪能し、白銀荘へ。温泉と美味しい食事がまっています。炊事担当のみなさんありがとうございます。食べて、飲んで、自己紹介がはじまり、遭難事件やお化け話、地元名産の紹介など楽しい話が盛りだくさんでした。さあ、明日は今日習ったことを頑張ろう！と気合いを入れながら眠りにつきました。

2日目；『三段山』 4時起床、外を見ると雪が吹いています。朝食のうどんを食べ準備完了。6時出発 順調に上がりはじめ、ながーいトラバースをクリアし、二段目を越えて三段目に向かうと、ガスで視界不良。目印の木も見えなくなり、進むのは中止。安全を確認しながら下山することになりました。赤いウェアを見失わないように付いていこう。さあ、昨日の特訓の成果はどうだった？ なんとなくできている！！ なんだか楽しい。皆さんにはほんとに感謝です。

無事下山し、解散式を行い今回の技術研修・強化合宿は終了しました。来シーズンは、少しでも上達して皆さんとまたお会いしたいです。

## 受講者感想

富良野山岳会 池内

今回は3月24日、25日と1泊2日の日程で行われ、宿泊は標高1千メートル強にある上富良野町白銀荘でした。言うまでもなく素晴らしい施設の宿泊場で、山岳スキーの疲れを十分に癒やされる最高の場所で、さらにここの温泉で十二分に身も心も癒やされました。

1日目のスケジュールは白銀荘駐車場に9時30分全員集合し、車を集約し富良野岳ジャイアント尾根入口駐車場に移動し、そこから標高1700mまでのスキーハイクです。今回は男性15名、女性6名(スタッフ含む)の参加でしたが、この日は男性14名、女性4名でA班、B班の2グループに分け10時30分スキー登攀開始となりました。天気は朝から雲一つ無い快晴で、久しぶりのスキーツアー日和でした。沢を渡り先人達のトレースをひたすらシール滑走し、標高を上げガリガリ急斜面を必死のおもいでトラバースし、ジャイアント尾根にたどり着いた時は12時を過ぎていました。尾根に着いたら風も出てきて、先ほどの汗がうそのように冷たく、肌寒くなり、皆さんジャケットを着込んでさらに30分程登攀し、標高1500mあたりで本日のシール登攀終了とし、ジャイアント尾根を全員無事に思い思いのシュプールを描き下山しました。

白銀荘へ戻り、夕食懇親会までの時間は皆さんそれぞれ自由行動で温泉に入る人、すでにのどの渴きを麦?で潤している人、畳の上で足を伸ばして疲れを取っている人、山行記録を自慢気味に話している人など、いいね! こういう雰囲気が良いんですよね! 勿論私は温泉に入っただのどの渴きをビールで癒やしながら、自分の山行記録を自慢気に話していました。そうこうしている間に女性スタッフの皆さんが手作りの料理をテーブルに並べ、今回出席者の中で一番の年長である山岸さんの「道岳連バンザイ」の挨拶で懇親会が始まり、17時から22時30分頃まで飲み食いし、いつの間にか布団に入り寝てしまいました。

翌日は4時起床でしたが、4時半に起床してしまい、まだ頭がクラクラしていましたが後片付けをし、朝食(カうどん)を済ませ(とても美味しかった)、6時に三段山に向けて出発です。今日はアイゼンをザックに忍ばせ、昨日と同じ班で頂きを目指します。但し、昨日の天気とは違い曇っておりテンションが違います。いつものようにビーコンチェックをし、スキー登攀開始です。最初は視界はまあまあでしたが標高上がっていくごとにガスが降りてき、視界が悪くバーンも硬くなり、標高1400m近くまで行くと風も付き視界もさらに悪くなり、これ以上進むのは危険と各班リーダー、サブリーダーともに判断し、昨日と同じ1500mあたりで撤退となり、視界の利かない斜面を班ごとに滑走し何度も止りながら確認し、全員無事に9時前に下山しました。今回もまた、天候に左右され計画通りにはなりませんでしたが、スタッフの皆さんのチームワークで素晴らしい山岳スキーが出来、充実した2日間でした。今回、私一人だけがテレマークの参加でしたが、滑走の技術、登攀の技術に良い体験が出来、テレマークの長所が発見出来た山岳スキー強化合宿でした。スタッフの皆様、各山岳会個人会員の参加者の皆様有り難う御座いました。

## 冬山講習会 Part1 2/3-4 羊蹄山・京極山荘

冬山講習会 Part I 平成30年2月3日-4日 羊蹄山会場 京極山荘(札幌山の会) 宿泊

目的⇒ 冬山登山の基礎を学ぶ 初級・中級の講習 冬山登山の楽しみを発見する

参加者⇒ スタッフ8名 参加者15名 計23名

日程⇒ 3日(土) 9:30 京極町吹き出し公園集合～会場 京極山荘へ移動

1. 座学 ①地形図・コンパス ②アバランチトランシーバー操作 ③雪中テント設営ツェルトの使用
- ④雪洞の構築

2. 野外活動 ①テント設営・ツェルトの使用、雪洞構築 ②アバランチトランシーバーによる捜索  
3. 山荘内 夕食・交流

4日(日) 6:30 朝食 7:30 野外活動開始 スキー班 15名 スノーシュー班 8名  
羊蹄山東面通称北コブコースをめざす、行動限界時刻 10:30  
山荘帰着 11:30 解散 13:30

行動記録⇒ スタッフは8人、受講参加者は15人。多くは道岳連個人会員で、当事業には頻回に参加している。皆、顔なじみで気心が知れ、個人会員クラブ、又は個人会員部会をなしているようだ。この再会を期待していたようで、物慣れて行動しやすい。

座学は熱心で、鋭い意見のやり取りが出た。「行程の所要時間はどうやって決めるの?」、「高低差のある山地の距離は?」等、返答に窮した。

野外活動は山荘周辺で実施した。積雪 100cm、吹きだまりがある。座学の指示のとおり、皆さんは手際がよろしい。テントの設営、スノーブロックでの囲い込み、立派な雪洞構築、極めて完成度が高い。アバランチトランシーバーでの捜索。日常、複数の発信を操作する機会が少なく、また、初めて手にする人など、戸惑い、これは繰り返し練習をする必要を感じた。この日は、気温-10℃以下で体は凍えた。気持ちは熱く、野外活動を終了。山荘の薪ストーブは暑く、焼き肉、速やかに時間は経過し午前0時、おやすみなさい。

翌4日(日)天候曇り、山域はガスの中、風なく7:30 行動開始。スキー班(15人)が先行、そのトレースを使いスノーシュー班(8名)が進行。スキー班は尾根に取り付く斜面でCTテストを実施した。CTH28 down40。林道から尾根に取り付く、550m高から粉雪になった。実践の内容、スキーの方向転換・ルート選択・標識付けを実演と解説した。標高700mから風、雪煙が舞う。雪面が硬くなり、風雪が強くなった。標高850mで終了、10:00。ガスの中見通し悪くなる。スノーシュー班、遅れて終点に達した。スノーシューは先に下山にかかる。スキー班は軽快に滑走し、短時間で山荘に到着。スノーシューは1時間後に到着、12:00。事故無く皆さんの協働で、整理、撤収は速やかだった。

このメンバーは不安なく行動できる人たちだ。山麓の天候は穏やか、なのだが山頂部は濃い雲の中だった。除雪、駐車場の確保に、京極町在住の野上さんの協力を得、感謝しています。

(報告 普及委員会 橋本 一郎)

スタッフ 顧問 小野 倫夫会長 明田 通世理事長  
横山 温 橋本 一郎 細木 輝雄 松下 陽子 加藤 陽子 横山 泰子



京極登山口 (スキー班)

### 受講者感想

個人会員 佐藤 学

昨年12月の山スキー講習会に続き、道岳連の講習会は2回目の参加になります。冬山は、職場の

経験者やガイドの方に連れて行ってもらい、スノーシューで低山を散策した程度の経験しかなく、冬山全般をしっかりと勉強したいと思い参加しました。

結論から言うと、初心者の自分にとっては非常に充実した二日間でした。初日の座学では地図読みとコンパスの扱いからスタート。地図読みとコンパスの扱いについては多少自信があったのですが、地形図から傾斜度や行動時間を読み取る方法についてはわからないことが多く、今回の講習で疑問点が解消できました。さらに、冬山装備の使い方やテント泊、雪洞の作り方などを勉強しました。



雪洞づくりを学ぶ

午後からは実習です。実際にテントを設営して、竹ペグの打ち方、防風壁の作り方、雪洞の作り方やそれらの注意点を勉強しました。午前中に勉強したことを実際に経験することで、本を読んだだけでは理解できなかったこと、気づけなかったことが良くわかりました。また、雪崩トランシーバーを使った訓練では、プローブは真下ではなく、斜面に垂直に刺すということを初めて知りました。

2日目はいよいよ登山開始です。私は今シーズンから始めた山スキーで参加しました。急斜面でのキックターンに苦勞しながら、何とか850m地点まで登りました。ここでも目印の付け方や、滑走する際に沢に入り込まないようにラインをとることなどを勉強しました。

このように、初心者の私にとっては非常に充実した2日間でした。冬山やバックカントリー初心者の方は、参加すると大変勉強になると思います。私も今後、いろいろな講習会に参加して、レベルアップしていきたいと思います。

## 冬山講習会 Part 2 3/17-18 三段山・十勝岳

3月17日… 今回の講習会の参加者はスキー14名、スノーシュー6名とスタッフ7名の総勢27名で、まだまだ雪深い白銀荘駐車場に各自で集合し、開講式後三段山目指し出発する。南西側コースをたどると森林帯は深い雪でしたが、先行者のトレースを利用することができたので、うまく高度を稼ぐことができた。森林限界を超えた1300m付近あたりから風が強くなり、視界もかなり悪くなってきたので、スノーシュー班はここから引き返す。残りのスキー班はとりあえず行けるところまで登ろうと言うことで、沢沿いを進むが、視界はさらに悪化しホワイトアウト状態。かすかな地形を頼りに登って行くと、最後にクラストした急な斜面となり、稜線にやっと出ることができた。

稜線にスキーをデポして三段山頂上へ、強風と視界不良の頂上からは雄大な上ホロや十勝岳を見ることができずとても残念！早々に記念写真を撮って全員間隔を狭め慎重下山する。リーダーとしては、いくら慣れ親しんだ山でも、やはり悪天候の時は標識を付け、クラストした斜面ではスキーアイゼン等を使用して、安全登山の基本に対応できなかったことについては少し反省でした！途中、雪の状態が良かった所から、それぞれ思いっきりパウダースノーを満喫し、全員無事に白銀荘駐車場に着いた。

ここから本日宿泊場所の凌雲閣別館へ車で移動し、本館の素晴らしい温泉に入って、今日一日の疲れを取ることができて大満足。夕食前に、講師の加藤陽子さんから低体温症の座学講習を受け、その後夕食、懇親会へと進んで、夜遅くまで話が盛り上がりました。別館は、登山者であれば30～40人程が利用できる施設で、今回トイレの調子が悪かったのでちょっと大変だったが、今後も大い

に利用する価値がある。

白銀荘駐車場⇒10:15 開講式⇒三段山登山口出発 10:40⇒三段山頂上 13:30⇒白銀荘駐車場 15:00  
凌雲閣別館 15:30⇒座学講習 16:30⇒夕食・懇親会

**3月18日**… 凌雲閣別館からそれぞれ白銀荘駐車場に移動して、7時半から前十勝方面に向けて出発する。本日は朝から天気が良く山々もはっきり見え、沢を渡りカバワラ尾根のとりつきで大休止し、春の日差しを浴びながら登って行くと、多くの方が下に見えた。1500m 付近から雪面が固くなり、スノーシュー班は更に上に登って行き、スキー班はこの辺から滑りを楽しむ事にした。下でカメラを構えて待つ横山 CL の所まで、最高のポーズで滑って行く皆さんは、メチャメチャ上手！特に秋元副会長のガッツと見事な滑りには脱帽でした。一回きりの滑りでは物足りないアクティブな参加者の皆さんは、再び先程の所まで登って、春スキーを思う存分楽しんで下山し、閉講式後解散となりました。

白銀荘駐車場 7:00⇒前十勝登山口出発 7:30⇒カバワラ尾根 10:00⇒白銀荘駐車場着 12:00⇒解散  
12:30 (報告 普及委員会 細木 輝夫)

スタッフ…秋元副会長 横山 温 細木 輝夫 橋本 一郎 佐々木 秀幸 加藤 陽子 横山 泰子



三段山へ出発準備



凌雲閣別館での座学講習

## リーダー記録

スノーシュー班 L 蘭友登高会 佐々木 秀幸

【3月17日】 三段山スノーシュー登山

男3名 女4名 天候 曇り 気温 -8℃ 吹上温泉駐車場 10時スタート。12時24分、1564mで風が強く視界不良のためリーダー判断で終了としました。下山時ホワイトアウト強風のため停滞していたスキー班2名を連れて安全な場所まで下山する。13時43分に吹上温泉駐車場に到着。

【3月18日】 前十勝 スノーシュー登山

2名は体調不良のためキャンセル、男2名 女2名 7時20分スタート。晴れ 気温-8℃ 風は弱い。1400m 付近でスキー班は滑走準備に入る。スノーシュー班は参加者のまだ上に登りたいとの要望もあり、天候も良いことからリーダー判断で頂上手前の雪煙が上がっている手前で止めることをメンバーに伝えて再スタートする。雪面は次第にクラスト化、風も強くなり始めたため、1700m で終了としました。10時30分頃下山開始、11時45分吹上温泉駐車場に到着。

【リーダー感想】 一日目の三段山では天候も悪いため、早めの下山となりました。二日目の前十勝では、天候も良く風も弱く、良い登山となりました。

## 受講者感想

佐藤 貴弘

北海道へ赴任する前は夏山を主に登っていましたが、今シーズンからは冬山にもチャレンジしたいと思い、冬山登山の知識を学ぶべく講習会へ参加させて頂きました。

1 日目は曇り空で、眺望は望めませんでしたが、スキーでの初めての登山だったので期待に胸を膨らませて出発しました。皆さんの輪に入れるか少し不安でしたが、気さくに話しかけて頂き、雰囲気溶け込むことができました。道中、スキーの歩き方やストックの使い方、体温調整の方法などひとつひとつご指導を頂き、冬山登山のノウハウを学ばせて頂きました。初心者の私にも無理なく付いて行けるペースで、一面の雪景色を楽しみながら登ることができました。山頂近くまで来ると風が強くなり、斜面も急になってきて、緊張感のある場面もありましたが、無事に三段山に登頂できました。記念撮影を終えていよいよ滑走の時間。視界が悪かったため、はぐれない様に気をつけながら降りていきました。誰かが滑ると歓声が上がる一体感ある雰囲気が新鮮に感じられ、気持ち良く滑っていると、あっという間にゴールの白銀荘に到着していました。



快晴の下 前十勝を目指す

前十勝の斜面が見えてきて胸が躍りました。せっせと尾根を直登して中腹のスタート地点へ。眼下に富良野盆地を見下ろしながら大展望の中を滑走。時間に余裕があったため、登り返して2本目も滑らせて頂きました。一步一步登った道をスキーであっという間に滑り降りると、夏山にはない特別な爽快感を楽しんで、大満足の中講習会を終えました。

2 日間の講習会を通じて様々なノウハウを教えるとともに、皆さんの暖かい雰囲気の中で冬山登山の魅力を感じることができました。講習会開催にあたり様々な準備をしてくださったスタッフの皆様、道中や懇親会で山の知識をご指導くださった皆様、本当にありがとうございました。

凌雲閣の温泉で疲れを癒やした後は、低体温症の講習会がありました。低体温症になった時の症状や処理方法について学びました。その後は夕食、懇親会とお楽しみの時間に。ボリューム満点のすき焼きを頂きながら皆さんと山の話で盛り上がりました。山岳会での活動や山岳指導員のことなど、興味深い話をお聞きしてとても刺激になりました。

2 日目の朝は暖かい豚汁をお腹一杯頂き、登山口の白銀荘へ。昨日とは打って変わって天気は快晴。最高のコンディションの中、前十勝を目指しました。樹林帯を抜けると、この後滑る

## SC日本ユース選手権リード競技大会 2018

3/24-26 千葉県印西市 松山下公園総合体育館

日本ユース選手権リード競技大会 2018 は、3 月 24-26 日千葉県印西市松山下公園総合体育館で開催された。北海道代表は男女各 3 名の 6 名で、カテゴリー別の成績は以下の通り。

坂本 大河	男子	ユースA	19位/41人	上原子音羽	女子	ユースC	17位/36人
竹内 悠真	男子	ユースA	23位/41人	井土 桜花	女子	ユースB	10位/37人
宮崎 法瑠	男子	ジュニア	24位/24人	上原子 瞳	女子	ユースA	25位/27人

今年も千葉県印西市で日本ユース選手権が開催された。昨年度までと違い、予選が1日1本ずつ、2日間で行われることとなった。女子課題は左壁に2本、男子は右に2本、それぞれ左から「ルート1」「ルート2」と名付けられていた。グレードは左から順に13a、12d、13b/c、13bくらいであろうか？ 完登者は1名、5名、3名、5名であった。

北海道からは6名の代表で臨んだ。女子ユースCに上原子音羽、ルート1に挑む、simplのホールド、ボテを多用したスローピーな課題だ。上原子はリード全国デビュー戦、全体でも9番という早い出番にも動じずいつも通り登る。クリップのタイミングにやや遅れがあったが、長い手足を生かし、見本通りのヒールフックもこなし、核心を一手抜け出す14+まで進む。ルート1を登った18名中3位タイ。十分に決勝進出が狙える。

続いて同じルートに井土、ユースBでの出場だが、優勝候補の一人であり、直前にテレビで取り上げられ、注目を浴びた登りだ。下部は落ち着いた登りで全く不安がない。上原子が取れなかった15手目アンダーもしっかりキャッチ、しかし次の16、17手目のボテについての巨大スローパーで力む。ここでクリップできず19手まで進むが粘れずフォール。本人は緊張と手の冷えとみていたが、巨大ホールドの処理に弱点があるのかもしれない。意外なほど早いフォールで18名中6位、決勝もギリギリであろう。続いて同じルートに上原子瞳。十分に情報を得てスタート。慎重かつ丁寧に下部を進む。14手までは問題なし。その大きいホールドで保持する所を探りながらクリップしようとするができず。この躊躇で一手戻るが盛り返せず14手、14名中12位であった。プラスが出せれば7位タイだっただけに、核心部の思い切りが必要だった。

男子はユースAに坂本。ルート2はフラットホールドと360ホールドで構成された見栄え重視の課題だ。坂本はアップもマイペースで充分行い、係にせかさされても動じず、完全に平常心で臨めたように見える。ボルダーチックな下部は生き生きと登り、難しさを感じさせない。急傾斜に入ってから22、23手も良く止め、ここから上位争いというところで足が切れる。23手で21名中7位タイ。各校の強豪に遜色ない登りであった。続いて同ルート・同カテゴリーに竹内。下部は落ち着いた、ヒール遣いもよい。問題なく進むが最初の核心である16手目ポケットにうまく手がかからず。巨大ボテに左ヒールをかけクロスで手を出すムーヴで距離が出ず16+でフォール。21名中14位タイ。最後はルート1にジュニア男子宮崎。課題はモルフォとBloczのホールドで構成されており、持久系に見える。宮崎もリードでは全国初出場であるが、ほぼ最終の登場にも集中を切らさず落ち着いた登り。9枚目核心部の左へのマツチも押さえ込み急傾斜に到達。21手目右のアンダー取りにムーヴを起こすが判定されず21手で12名中12位。男子ジュニアはワールドクラス揃いであり、この中では十分な登りであった。

この日は競技後、ユース研修会やアンチドーピング研修などがあった。国際大会出場(希望)者は必修ということで、井土が参加。夜のミーティングでは、各自翌日のモチベーションをあげていた。期待したい。

2日目、上原子音羽がルート2に登場。スタートでいきなりのムーヴミス。あわやスタート落ちかというところを何とか耐えたが、力を使いすぎた。粘って高度を上げるがAIXのハリボテを処理しきれずフォール、14手。このルート36人中20位。前日が全体の10位タイであり、トータル17位まで下げてしまったが、全国デビューとしては上々の出来だ。ヒール遣いなど技術的な課題も見えた。続いて井土。十分に課題を研究し、正確なムーヴで進む。下部は安定。決勝進出の目安とみた29手を目指すがそこまで届かず。26手目のボテアンダーをかりうじて止め、さらに手を伸ばし26+、このルート37名中8位タイ。前日は12位であったが、井土の後に登った前日に井土より高高度だった2選手が続いてミスしたこともあり、奇跡的に10位で決勝に残る。

続いて上原子瞳。同じルートだ。体調も良く、アップも十分に登る。前半は非常に落ち着いてスムーズなムーヴである。ヒールもよく効き、14手を止める。ここからだ。AIXのボテを利用し、不

安定な足上げから一手を出したい。しかし次のホールドに届かず 14N、27 名中 23 位タイ。前日も 23 位タイ。トータルは 25 位であった。2017 年高校選手権では準決勝に残った選手なので、実力を出し切ったとは言い難い。上部でも思い切りよくボルダームーブを出せる登りを身につけて欲しい。

男子はルート 1 に坂本。非常に落ち着いた登りで安定している。核心の 22 手目アンダーもうまくキャッチ、レストもしっかりと上部へと進む。27 手目を取り、右足ヒールをかけるも手を出す前にヒールが外れフォール、27 手、このルート 22 位(42 名中、前日は 12 位タイ)トータル 19 位に下がる。続いて竹内、「前日から 10 番上げる」宣言をして登る。落ち着き、粘り、レストも効果的で気持ちのこもったいい登りだ。坂本の落ちたポイントからのヒールも巧みに使い手を伸ばす。クリップをとばしてさらにアタック、29+でこのルート 17 位。前日の 31 位からトータル 23 位まで上げた。

最後に宮崎。ルート 2 だ。落ち着いた登りで足技もよく、ハリボテの処理もうまく対応する。核心 16 手目ポケットに手こずり足上げを三度試みるが体を乗せられずフォール、16 手で 24 名中 24 位、トータル 24 位であったが、世界で戦うメンバーを相手にし、モチベーションも上がったことだろう。

結果、井土 1 名の決勝進出となったので、明日は全力でバックアップする。今回、上原子音羽や坂本のように、出場選手数の半分以下の順位に入れるようになった者も現れ、北海道チームユース強化が実を結びつつあるとも考えられる。さらに競技力向上のために工夫して強化したい。

最終日、井土がユース B 最初の選手として登場だ。ルートは右壁全部を使い、フラットホールドを多用した非常に見栄えのいい課題だ。恐らく 13b であろう。最終的に谷井が完登し伊藤ふたばは落ちた。井土は 10 位通過であり、失うものはない。思い切りよいムーヴで前半は好調だ。7~8 手目の巨大三角ボテ 2 つの処理で力を使うが、その後は理想的な動きだ。18、19 手の巨大ホールドの両手ガストンからの左足上げで苦しくなる。手を出せば 6 位以内に伸ばせたのだがフォール。10 位。6~10 位が同高度のカウントバックであった。

総括して、北海道のユース育成も実を結んではいるが、北海道のエース井土でさえ、カテゴリーが上がると苦戦するのが実態だ。他の都道府県の強化もすさまじい。国体少年の部の入賞やワールドクラスの選手を育てるならば、北海道 1 位や全国出場で満足せず、特に持久力をつけさせて 13 台上部で粘れる選手を育てなければとの思いを強くした。12 後半、13 前半のルートでの練習を増やしたい。(※ 会場内 撮影禁止のため、写真の添付はない)

## 第4回ボルダリングユース日本選手権代表選考会 4/1 美唄市体育センター

男 子				女 子			
氏 名	所 属	順位	選考	氏 名	所 属	順位	選考
坂本 大河	札幌平岸高校 1 年	1	○	上原子 瞳	札幌静修高校 2 年	1	辞退
竹内 悠真	立命館慶祥高校 1 年	2	○	井土 桜花	札幌市立宮の森中学校 2 年	2	○
佐川 奎汰	遠軽高校 3 年	3	○	上原子音羽	札幌市立新川中学校 2 年	3	○
				吉田 ゆな	小樽市立菁園中学校 2 年	4	○

※男子 佐川選手は、日本選手権大会参加選手枠の関係でキャンセル待ち

全国大会派遣について

派遣期間 平成 30 年 5 月 18 日~21 日 会場 鳥取県倉吉市 倉吉体育文化会館

引率者 北海道体育協会指定コーチ 國谷 斗馬 (グラビティリサーチ札幌)

北海道体育協会指定コーチ 畑野 和宏 (北海道遠軽高等学校)

## 今後の諸行事(予定)

### 道岳連総会・第1回理事会

期 日 平成30年5月13日(日) 会 場 札幌エルプラザ

### ボルダリング日本ユース選手権兼道外合宿

期 日 平成30年5月18日(日)-21日(日) 会 場 鳥取県倉吉市

### 夏期遭難対策研修会

期 日 平成30年5月19日(土)-20日(日) 会 場 日高登山研修所と周辺

### 第3回拡大合同登山(企画山岳会 旭川山岳会)

期 日 平成30年5月20日(日) 会 場 芦別岳1稜・本谷

### 第5回ジュニアSC奈良杯兼第21回JOCジュニアオリンピックカップ大会北海道予選会

期 日 平成30年5月27日(日) 会 場 美唄市体育センター

### 安全登山シンポジウム

期 日 平成30年5月28日(月) 会 場 札幌エルプラザ

### 登攀研修会(※日程変更の可能性あり)

期 日 平成30年6月2日(土)-3日(日) 会 場 小樽赤岩・おこばち山荘

### 夏山講習会 Part 2

期 日 平成30年6月9日(土)-10日(日) 会 場 チャラツナイ海岸・地球岬

### 第56回全日本登山大会京都大会

期 日 平成30年6月16日(土)-18日(月) 会 場 京都市郊外トレイル

### パワフルレディーズ登山研修会

期 日 平成30年7月21日(土)-22日(日) 会 場 会場未定

### 美瑛富士避難小屋携帯トイレブース点検パトロール

期 日 平成30年7月29日(日) 会 場 美瑛富士避難小屋

### ジュニア登山教室

期 日 平成30年8月2日(木)-4日(土) 会 場 雌阿寒岳・ネイパル足寄

### 第72回国民体育大会北海道予選会

期 日 平成30年8月4日(土)-5日(日) 会 場 グラビティサーチ札幌・美唄市体育センター

### 沢・登攀研修会

期 日 平成30年8月18日(土)-19日(日) 会 場 白老川支流の沢・登別ふおれすと鉱山

### 高所登山講習会

期 日 平成30年8月23日(木)-26日(日) 会 場 富士山

### 第31回北海道山岳連盟交流登山会

期 日 平成30年8月26日(土)-27日(日) 会 場 恵庭岳他・モーラップキャンプ場

(開催要項等詳細は、道岳連HP各委員会のページ参照)

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.83 平成30年5月1日発行

発 行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内 藤 美佐雄

